

デジタル変革時代の電波政策懇談会  
公共用周波数等ワーキンググループ（第1回）（非公開）  
議事要旨

1 日時

令和2年12月16日（水） 10:00～11:40

2 場所

総務省 第一特別会議室

3 出席者（敬称略）

（1）構成員：

高田主査、飯塚構成員、大谷構成員、寺田構成員

（2）総務省：

新谷総務副大臣、竹内総合通信基盤局長、鈴木電波部長、布施田電波政策課長、  
柳迫電波政策課企画官、荒木基幹通信室長、寺岡重要無線室長

4 議事要旨

（1）開会

（2）議事

① 運営方針（案）の確認

資料公共WG 1-1について、特段の意見なく了承され、主査代理に森川構成員が指名された。

② 検討の進め方について

資料公共WG 1-2に基づいて、事務局より説明が行われた。

③ ヒアリングの実施について

資料公共WG 1-3に基づいて、事務局より説明が行われた。

④ 関係省庁ヒアリング

防衛省、消防庁、経済産業省から、現在利用中の無線通信システムについて、特に「他用途での需要が顕在化しているシステム」及び「アナログ方式を含むシステム」を中心にヒアリングを行った。

「他用途での需要が顕在化しているシステム」については、防衛省から、令和6年度末までに他の周波数への移行を完了させる旨の説明があり、また、消防庁から、携帯TVシステムについて、代替手段を確保できたことにより廃止することとした旨の説明があった。

「アナログ方式を含むシステム」については、当該3省庁から、可能なシステムに関しては、有線回線へ切り替えや、より周波数利用効率の高い方式が導入されれば、当該方式への移行などの対応を検討したい旨の説明があった。また、総務省から、アナログ方式については、セキュリティ上の懸念があることの指摘の他、より周波数利用効率の高い方式への移行を促進するため、電波利用料を用いた技術試験事務などの実施により、技術基準を確立する

ことも可能である旨の説明があった。

(3) 閉会

以上